

5、 甲斐・信州国境地帯 ハケ岳山麓に縄文遺跡を訪ねて

2006.10.6.-10. by Mutsu Nakanishi

縄文人は山を見晴らす素晴らしい高原に住んでいた



北杜市周辺から見た山々 左：南アルプス鳳凰三山・甲斐駒 中央：ハケ岳 右：茅が岳 2006.10.10.



- 1、 日本人の心の故郷といわれる縄文集落がそっくりそのまま見つかった
茅ヶ岳山麓の北杜市梅ノ木縄文集落遺跡を訪ねる
- 2、 ハケ岳 清里 清泉寮に泊まって
- 3、 縄文の黒曜石原産地遺跡 長和市長屑峠に縄文の黒曜石鉱山を訪ねる
縄文石器材料「黒曜石」を日本各地に配っていた霧ヶ峰・中山峠



左：梅の木縄文遺跡 中央：ハケ岳清里 清泉寮周辺 右：縄文の黒曜石鉱山星屑峠原産地遺跡

今年の初め、新聞に茅ヶ岳山麓で祖先を祭る広場を取り囲んで住居が建ち並ぶ縄文の集落がそっくりそのまま出土したという。弥生が戦さの時代といわれるのに対し、戦さのない素朴な日本人の心の故郷といわれる縄文の象徴である。常々一度しっかりそんな村を見たいと思っていた集落が今なら見られる。

しかも 出土したところが縄文のビーナスなどが出土したハケ岳山麓に続く東隣の茅ヶ岳山麓。この山の北側 霧ヶ峰・中山峠には糸魚川の翡翠と共に日本各地にその痕跡が見られる黒曜石の原産地である。車がないと中々廻れぬところ。

家内に清里に泊まってというといくという。珍しく意見一致で

甲府にいる知人や東京の娘一家を訪ねるスケジュールも入れて

10月6日の朝神戸を車で出発。あいにく雨であるが 名神・中央道経由で諏訪へ。伊那谷を抜けるあたりでは本降りでの日は山の景色を楽しめなかったが、東京の帰り再度訪れた時は快晴。素晴らしい山の景色を楽しめました。

縄文の環状集落がそっくりそのまま出土
山梨県 北杜市 梅の木縄文遺跡



茅ヶ岳をバックに東には富士山がぼっかり浮き、正面に広がる台地の眼下には西から甲府盆地に流れ込む釜無川沿いの狭い河川平野に韭崎・北杜の街並。そしてその向こうに南アルプスの荒々しい峰々が壁のように建ちだかる。西に眼を転じると八ヶ岳がどっしりと座っている。



梅ノ木縄文環状基路跡跡 環状に広場を取り囲む竪穴住居群 約180の竪穴住居が密集された
北杜市縄文文化センターで 写真をコピーさせてもらった 2006.10.10.



東側上空より 梅ノ木縄文環状基路跡跡 雪域に八ヶ岳が広大な裾野を広げている
北杜市縄文文化センターで 写真をコピーさせてもらった 2006.10.10.



縄文の集落がそっくりそのまま出土した梅ノ木縄文遺跡 八ヶ岳・茅ヶ岳山麓 山梨県北杜市
梅ノ木遺跡はそんな茅ヶ岳の台地の上 リンゴ林やぶどう園にかこまれて 広場を中心に竪穴住居跡が建ち並んでいました。「縄文人はこんなすばらしい場所に住んでいたのだ」としばし、周りの景色に見とれていました。また早朝の八ヶ岳山麓清里はもう秋。 夜がしらみ始めた早朝 さくさくと落ち葉を踏みしめて歩く白樺の森に聖アンデレ教会の鐘の音が響いていました。 やっぱり 一泊して早朝歩く幸せ 素晴らしい散策でした。

茅ヶ岳から南アルプスの眺望 清里 清里第29 2006.10.7.朝



いちづきびのた清里の森で 2006.10.7.朝



「朝の清里」を撮る機がよい 清里の森の中にある聖アンデレ教会 2006.10.7.

初秋 八ヶ岳山麓 清里の朝 2006. 10. 6.

また、八ヶ岳と霧ヶ峰の間の白樺湖の横 信州峠を越えると数々の縄文人が黒曜石を求めて移り住んだ山に囲まれた長和町鷹山。熊が出ると脅かされながら静かな林の中を登って星糞峠へ。峠の南の山の斜面には100を越える幾つもの縄文人が黒曜石を掘って出来た窪地が林の中に散らばり、其の一つ一つに野球ボールほどの番号標識が付けられて点在。ふと足元の土を凝視するとキラキラ漏れ来る日差しに光る黒曜石の屑。星糞峠の名前そのままに林の中に黒曜石が点在していました。



鈴を貸してくれた黒曜石ミュージアムの人達はなかなか帰ってこないで 随分心配してくれたようですが、林の向こうに見え隠れする霧ヶ峰の山並みを眺めながら 縄文人が黒曜石原石を掘り出した鉱山跡に眼を凝らして地面を見ながら歩き回りました。



信州 鷹山星糞峠 縄文の黒曜石鉱山 星糞峠黒曜石原産地遺跡 2006. 10. 7.

この信州から日本海へ出たところの糸魚川は縄文の翡翠の原産地。この翡翠とこの地の黒曜石が対となって遠く三内丸山遺跡にまで運ばれている。誰もいない静かな山中 木々が点在する山の斜面の林の中に今もキラキラと黒曜石のクズが輝いていました。

車でないと本当に便利の悪い場所ですが、「星糞峠」の名前そのままに誰もいない神秘的な空間でした。

一度ゆっくり、信州の山を眺めながらのゆったりした旅をしたかったのですが、そんな満足を達成させてくれた甲斐・信濃国境 縄文を訪ねる旅 「甲斐 茅ヶ岳山麓・八ヶ岳清里・信濃霧ヶ峰 星糞峠」の旅の写真をアルバムにまとめました。

諏訪湖・諏訪大社もすぐ近くでしたが、今回はたずねることができませんでした。

この諏訪湖周辺は湿地の葦原に吸い寄せられた鉄が堆積して作られた褐鉄鉱・高師小僧が豊富にあり、これを原料として古代たたら製鉄の前に製鉄が行われた可能性が多くの伝承で伝えられ、諏訪大社も製鉄の民との関連が在るという人もいます。そして ある本にはすでに諏訪・信濃では縄文時代には褐鉄鉱・高師小僧を利用した製鉄が行われ、その様相を縄文の火炎土器そして製鉄炉が円筒埴輪だとして研究をしている人もいます。

にわかには信じられませんが、これらの鉄素材がひょっとして1000℃近傍で反応して溶けるなら、可能性があるかもしれない。そうすれば、日本各地に残る伝承の多さから日本の古代が変わってしまうと・・・

梅ノ木遺跡が出土した北杜市にも古墳時代の鉄製品の出土があるなど古代鉄の痕跡があると北杜市の埋蔵文化センターで聞きましたが、次回です。

1、日本人の心の故郷といわれる縄文集落がそっくりそのまま見つかった

茅ヶ岳山麓の北杜市梅ノ木縄文集落遺跡を訪ねる

1.1、土砂降りの雨の中 北杜市 梅ノ木縄文遺跡を訪ねる 2006.10.6.



山麓に梅ノ木縄文遺跡を抱く茅ヶ岳 2006.10.6.

10.6. 午後 土砂降りの雨 山口で一緒に仕事した仲間を北杜市の隣の南アルプス市に訪ねる。

甲府のぶどう・リンゴ・ももなど果樹園のど真ん中に住んでいて、本当にうらやましい。

「天気がいいとアルプスが素晴らしい。なんで よりによって 雨の日・・・」と。

周囲の山々や果樹園の話を実際にうらやましく聞いて、天気の良い日を選んで 東京からの帰りにもう一度来ようと・・・

「雨の中 人もいない高原 茅ヶ岳

縄文遺跡の宝庫 八ヶ岳・茅ヶ岳周辺図

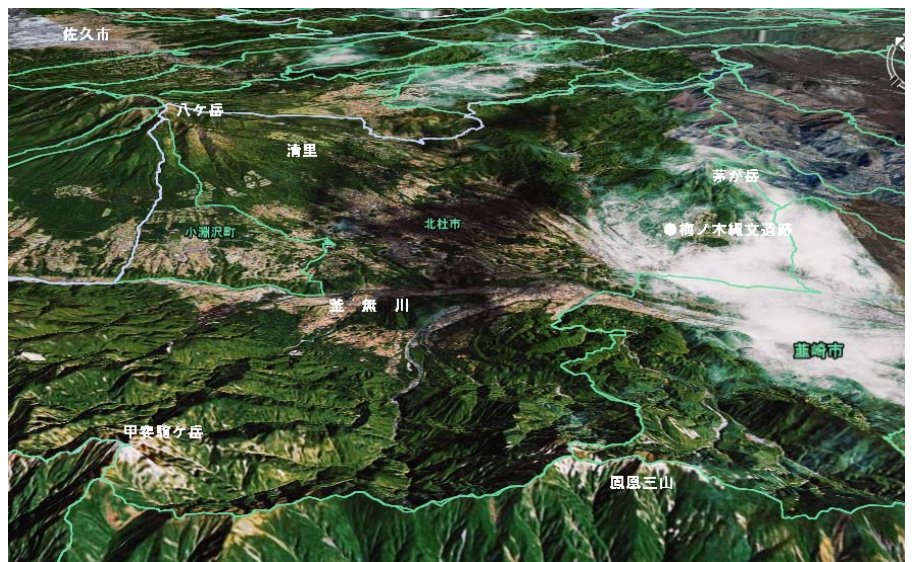
広域農道の入り口が難しいし、遺跡の場所をよう見つけんやろから」と事前に見に行き 梅ノ木遺跡 近くまで車で先導して送ってくれた。

甲府の南側に隣接する南アルプス市から釜無川を渡って うっすら雲の中に八ヶ岳頂上部に雲がかかった茅ヶ岳の南山麓の台地に付けられた茅ヶ岳広域農道に入り、畑が広がる高原台地の上を走る。

地図には印を入れてきたが、目印になる山々が全く見えないが、30分ほどで、山梨県フラワーセンタの前をすぎると田畑の中に左右にリンゴ園が点在する北杜市明野町の梅ノ木遺跡周辺につく。

明野の集落は台地の下で、リンゴ直売所が少し手前にあっただけで、周囲は広い畑が続き、畑の奥 茅ヶ岳の山裾にわずかに人家が見える。

「晴れた日には山々がこう見えて・・・」と教えてくれるが、西の八ヶ岳も南の南アルプス連峰も全く見えない。



雨の中 周囲が全くみえない茅ヶ岳山麓の丘陵地 北杜市梅ノ木遺跡周辺 2006.10.6.

畑地の北側 茅ヶ岳が見えるはずであるが、全く見えず

「この広域農道のそばの砂利道を山の方へ 500m ほど入ったあたり、向こうにブルドウザが見える辺が遺跡のはず」 こんな雨の中 物好きな・・・と友達は言葉にはださないが、笑いながら帰ってゆく。

とにかく 新聞や考古学速報新発見 2006 に載った航空写真のイメージを頭に田畑のあぜ道を入れてゆくと、ますます雨が強くなって確信が持てない。

結局、奥の茅ヶ岳の山裾の家を訪ねて、おばさんの車に先導してもらって遺跡へ。



茅ヶ岳山麓 丘陵地 梅ノ木遺跡周辺 2006. 10. 6.

写真奥 雲の中に八ヶ岳の裾野がうっすら見える



雨に煙る梅ノ木縄文集落遺跡 全景 北側より

る場所は竪穴住居跡らしい。何とはなしに、広場を取り囲む縄文の集落跡であることが判る。

先ほどブルドーザーのところからあぜ道を北に入ったのですが、その南側の草原が梅ノ木遺跡だという。

良く見ると 広い草原のところどころにブルーシートが被せてある場所があり、ぐるっとそのブルーシートをつなぐと真ん中が広場で、ブルーシートがかけられている



雨に煙る梅ノ木縄文集落遺跡 全景 南側より 2006. 10. 6.



雨に煙る梅ノ木縄文集落遺跡 全景 北側より

この草原右手には茅ヶ岳から草原に沿って 雑木林が見える。
そこが谷になっていて、雑木林の中に入ると狭い谷の崖下に、
ブルーシートがかけられ、ここが梅ノ木遺跡の水場・作業場
の発掘現場と知れる。

ひとり子一人いない広場の真ん中に立つとグルリと周りが
見渡せるが、土砂降りの雨でまったく 周りの状況がよくわ
からない。

「縄文の広場を中心に祖先と一緒に暮らした縄文の村」

赤坂憲雄さんの話に引き込まれて何度も聞いた縄文の集落
半信半疑だったのですが、広場の中央に立って、本当だっ
たんだとグルリと体を回して、ブルーシートを一周。

晴れていれば 其の眼前には 茅ヶ岳・南アルプス・ハケ岳
の大パノラマ 昔は違っていたでしょうが、ぶどうが実り、
リンゴが赤い実を付けている。晴れていれば、どんなに素晴らしい景色だったろうと・・・。



ブルーシートのかけられた遺跡の水場と作業場
集落跡のある台地西に隣接した谷間



梅ノ木縄文集落遺跡 全景 (10.10. 晴れの日撮影した遺跡)

絶対にもう一回帰りに立ち寄ろう。 家内に言うと同意見。

それにしても 雨の中 友人も 訊ねたおばさんも よう 連れてきてくれたわ・・・と感謝です。

まだ 発掘が続いているので、この先どうなるかわからないが、そっくりそのまま残してほしい。



ハケ岳山麓側から茅ヶ岳 2006. 10. 7.

たポールラッシュの開いた清里へ

清里の聖アンデレ教会 昔銚子で世話になった武藤
牧師を訪ねたあと、一度泊まりたかった 清泉寮に
着いた時にはもう薄暗くなっていました。

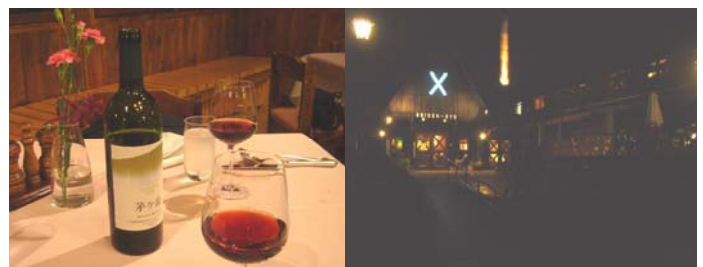
平日なのでディナーは数組だけ ゆったりとディナ
ーを楽しめる。ワインを訊ねると「茅ヶ岳」がお勧
めという。 すっかり うれしくなって
それで乾杯。山の静かな夜を楽しみました。

土砂降りの雨の中 30分ほど 草原をあちこち歩
きまわって、また 広域農道をさらに西へすぐ西側
のハケ岳山麓へトラバースして 夕方の清里へ。
ハケ岳の山麓側からは今まで、今雨の中見てきた梅
ノ木遺跡を懐に抱く茅ヶ岳全体が始めてその大きな
山体を現す。大きい山である。

この茅ヶ岳は「日本百名山」深田久弥が最後に登っ
て、ここでもなくなった山でもある。

東京からの帰りにもう一度きて アルプスを梅ノ木
遺跡から見よう。

そういいながら、約30分ほどでもう暗くなりかけ



ハケ岳 清里 夜の清泉寮 「茅ヶ岳」ワイン

1.2. 縄文集落跡がそっくり出土した北杜市梅ノ木縄文集落跡遺跡 概 要

10. 10. 北杜市明野町埋蔵文化財センターでいただいた資料・写真より



縄文集落跡がそっくり出土した北杜市梅ノ木縄文集落跡遺跡



梅ノ木縄文集落跡遺跡 環状に並ぶ縄文時代の住居跡が確認された。北杜市埋蔵文化財センターでいただいた資料・写真より。 2008. 10. 10.



梅ノ木縄文集落跡遺跡 環状に並ぶ縄文時代の住居跡が確認された。北杜市埋蔵文化財センターでいただいた資料・写真より。 2008. 10. 10.



梅ノ木縄文集落跡遺跡 環状に並ぶ縄文時代の住居跡が確認された。北杜市埋蔵文化財センターでいただいた資料・写真より。 2008. 10. 10.

素晴らしい晴天の 10. 10. 梅ノ木縄文遺跡を再度訪れ、予想通り、遺跡からは素晴らしい南アルプスや八ヶ岳の大パノラマを見ることが出来ました。また、横の谷では地元の人達による台地の上から作業場・水場へ至る縄文の道の発掘調査が行われていました。

ちょうど昼休みのおばさんたちに話しかけ、この台地の下にある北杜市埋蔵文化センターに行けば、空から見た写真やら資料があると聞いて訪れ、見せていただいた写真やいただいた資料で梅ノ木縄文遺跡の概要をまとめました。

梅ノ木遺跡は約 5000 年前縄文中期 約 500 年続いた集落跡遺跡で、丘陵地の台地に約 3ha のひろがりがある。

180 軒以上の竪穴住居が広場を取り囲むように直径約 100 メートルの環を描いて建ち並ぶ環状集落がある。すぐ隣の川が流れる小さな谷には水辺の作業場があり、集落から、その水辺の谷への縄文の道が見つかっている。

集落全体・道・水辺の作業場がセットになった縄文の村全体像が見える貴重な遺跡である。



この遺跡は八ヶ岳連峰のすぐ南東側に位置する金ヶ岳・茅ヶ岳の西麓 標高 800 メートルの丘陵地の上にあり、広々とした原生林を切り開いて、たった 2 軒の住居が住居がつくられ、この梅ノ木集落 500 年の歴史が始まったという。



北側からの梅ノ木遺跡の全景 2006. 10. 10.



写真4 人面装飾のついた吊手土器
(梅之木遺跡55号住居)



写真7 石を敷いた住居 (梅之木遺跡10号住居)



写真3 曾利Ⅳ式時代の炉
(梅之木遺跡18号住居 壁際には石柱がみえます)



写真5 住居出入り口に埋められた埋壺
(梅之木遺跡18号住居)



写真6 住居内に立てられた石柱
(梅之木遺跡18号住居)



写真2 曾利Ⅰ式時代の炉 (梅之木遺跡111号住居)

山梨考古 101 号「梅ノ木遺跡から見た縄文のムラ」より 2006. 5. 1.

梅ノ木遺跡では井戸尻 3 式・曾利Ⅰ～曾利Ⅴ間での 6 式の土器が出土しており、この土器から縄文中期約 500 年続いたムラの様子が浮かび上がってくる。この地方の土は酸性土で墓がとこにあったのかはよくわかりませんが、土坑の調査などから、竪穴住居の間にあったとみられ、死者とが生きている人たちの竪穴住居と一緒に広場を取り囲んでいたと考えられている。

また、18 号住居から出入り口に埋壺が 2 つ埋められ、其の横に平たいが立ち、さらに壁に 2 本の石柱が立てかけられている。埋壺は幼くして死んだ子供の墓あるいはお産の後産を入れて子供の無病息災を祈ったものと考えられ、住居に持ち込まれた石柱も何か祈り・祭の道具だったのかもしれない。

死んだ祖先や子供たちと同じ空間の中で縄文人が暮らしていたことがよくわかる。

また 珍しい人面の吊り手土器や土偶も出土している。

集落の北西の沢にある水辺の作業場へ降りてゆく縄文の道が昨秋確認され、現在も調査が続いている。

この沢への道は集落から水辺まで標高差 17～18m。急な斜面に「土木工事」で斜面を掘り下げ平らにした道が 70m にわたって続いている。水辺には平らな石が敷き詰められ、焼けた土も確認され、この作業場で動物の解体や土器などが焼かれたと考えられている。



集落から水辺の作業場へ続く縄文の道 右上奥が作業場 2006. 10. 10.



写真10 水辺の作業場の様子



写真11 水辺の作業場（敷石遺構）



写真12 水辺の作業場（集石土坑）

山梨考古 101 号「梅ノ木遺跡から見た縄文のムラ」より【2】 2006. 5. 1.



写真9 梅之木ムラの道
(造成して平坦面をつくりだしています)

山梨考古 101 号「梅ノ木遺跡から見た縄文のムラ」より【2】 2006. 5. 1.

「戦いと穢れを知らず 祖先と一緒に暮らす縄文のムラ」「日本人の心の故郷 縄文」

広場・墓場を中央にそれを取り囲むように住居が広がる。

一方 弥生の時代は「戦さの時代」集落は住居を取り囲む環濠でしっかり守られ、村の中には高い望楼が立っている。祖先の墓は環濠の外に遠ざけられている。

何度も赤坂憲雄氏の講演でいっぺんにファンになり、何度となく聞いた縄文のムラの話であるが、そんなきれいな環状集落を是非一度は見たいと思ってきました。三内丸山には墓の道があり、墓の道を通して集落に入るが、集落が大きすぎて 広場を取り囲むといったイメージがなかなか持てなかったが、まさにしっかりと環状に広場を取り囲む竪穴住居群がありました。

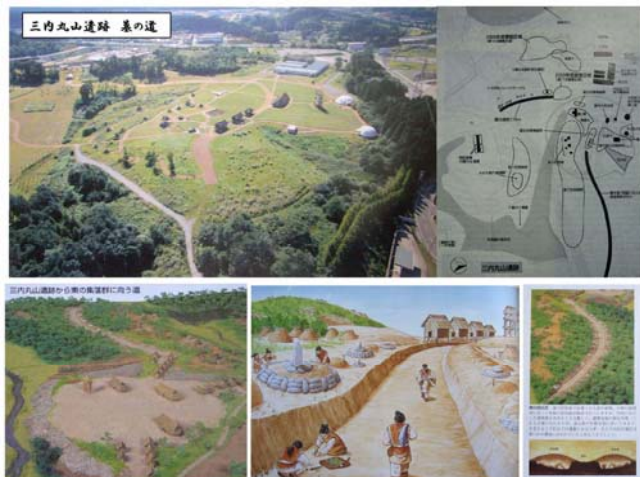
ましてや 弥生の時代は「鉄」の時代。 鉄・鉄文化が戦さを生んだのか・・・つい最近 鉄が集積され、損傷人骨が多数出土した鳥取県の弥生時代後期の青谷上寺地遺跡には高い望楼があったと奉じられている。
日本人にはこの縄文・弥生の 2 つの気質を潜在的に常に持ち合わせている。願わくは 縄文の知恵の中で平和に暮らしたい」との気持ちがある。

鳥取県 青谷上寺地弥生遺跡 弥生後期



2006. 11. 11. 朝日新聞

戦に備えた弥生の環濠集落 福岡県板付遺跡 & 神奈川県大塚遺跡



縄文の環状集落がそっくりそのまま出土
山梨県 北杜市 梅之木縄文遺跡



縄文の集落と弥生の集落の比較

梅ノ木遺跡が出土した茅ヶ岳山麓から八ヶ岳山麓へと続く丘陵地は縄文遺跡の宝庫。

この梅ノ木遺跡のある北杜市にも数多くの縄文遺跡があり、 北西の八ヶ岳山麓には縄文中期の代表的な遺跡 井戸尻縄文遺跡群 さらに北西の茅野市には縄文のビーナスが出土した棚畑遺跡や双環状の大集落である尖石縄文遺跡があり、また 八ヶ岳を北に越えて裏側の霧ヶ峰・鷹山星麓峠には日本各地に運ばれた黒曜石原産地遺跡がある。

これらの遺跡と梅ノ木遺跡との結びつきなどは現状まだよくわかっていないが、梅ノ木遺跡でも黒曜石が出土しているといわれ、今後これら周りの縄文遺跡との関連も検討されるだろう。

また、この梅ノ木遺跡のある浅尾地区では 遺跡を含む北側の谷間に廃棄物最終処分場建設の計画があり、賛否両論で揺れ動いていたが、この処分場を北側にずらし、規模を縮小して建設をスタート。

遺跡調査は 2007 年に完了し、その後 国の史跡指定を受けて歴史公園として整備されるスケジュールが進められていると聞きました。

ぜひとも いわずに 今の景観がそのまま残されれば・・・と願っている。

■ 参考資料

北杜市教育委員会 平成 17 年 12 月 17 日 梅之木遺跡見学会 資料

山梨考古 101 号「梅ノ木遺跡から見た縄文のムラ」 2006. 5. 1.

空から見た梅ノ木遺跡写真は北杜市埋蔵文化財センタで接写させていただいた



1.3 再度 梅ノ木縄文集落跡遺跡を訪れて 梅ノ木縄文遺跡アルバム



茅ヶ岳山麓を走る広域道より 茅ヶ岳全景 北杜市 フラワーセンタ周辺 2006. 10. 10.

10月10日 快晴 素晴らしい天気である。東京を朝早く出て 再度中央高速道を通して北杜市へ
前回 訪れた時には 全く周囲の状況が見えなかった梅ノ木遺跡周辺も素晴らしい景色が見られるだろうと期待
が膨らむ。韮崎のインターチェンジで出て 6日に仲間が教えてくれたとおりに茅ヶ岳の広域農道に入り、茅ヶ岳
の山裾をまきながら、丘陵地を登ってゆく。

丘陵地の上は畑地とリンゴ林やぶどう園が点在し、その向こうに南アルプスが豪快な峰々を連ねている。
まずは車を止めて、この素晴らしい南アルプスのパノラマに見入る。



南アルプス 左 鳳凰三山 右 甲斐駒ヶ岳 北杜市茅ヶ岳山麓の丘陵地より 2006. 10. 10.

もう その高さに圧倒されて しばし見入っていました。かつては あの上に立ったのですが、もう高くても
登れない。先日 仲間が自慢していた素晴らしい山の景色 圧倒的な高さです。

元の道に戻ってすぐ 赤い実をつけたリンゴが目につく。直売所に入って リンゴを試食して 孫にリンゴを

送って。 真っ赤に実ったリンゴ林を見るのは久しぶり。
本当に気持ちがいい場所である。



リンゴ畑の後ろに茅が岳が見える北杜市梅ノ木遺跡周辺 2006. 10. 10.

リンゴ園の所からものの5分ほどで 梅ノ木縄文遺跡。

3日前にきた時とは全く違った光景。茅が岳をバックに東には富士山がぽっかり浮き、正面に広がる台地の眼下には西から甲府盆地に流れ込む釜無川沿いの狭い河川平野に韭崎・北杜の街並。そしてその向こうに南アルプスの荒々しい峰々が壁のように建ちはだかる。西に眼を転じると八ヶ岳がどっしりと座っている。
「縄文人はこんなすばらしい場所に住んでいたのだ」としばし、周りの景色に見とれていました。



南側から梅ノ木縄文遺跡 集落跡の向こうに聳える茅が岳 2006. 120. 10.



梅ノ木縄文遺跡 集落跡 全景 北側より 2006. 120. 10.



南西側



中央広場



南東側



西 八ヶ岳



南側



東 富士山

中央 南アルプス
梅ノ木縄文遺跡 集落跡 全景

2006.120.10.



梅ノ木縄文環状集落跡 登録された縄文式住居と35号住居より出土した土器 fragment のついで着き土器
北杜市縄文文化財センター資料より 2006.10.10.



貯穴住居跡

西の川へ降りる縄文の道

この地に無い平石がしかれた水場
北杜市縄文文化財センターで 写真のコピーをもらった 2006.10.10.



集落跡に隣接する林の中に入ると急な斜面の下で発掘作業が続けられていて、集落から水場に至る縄文の沢の道がかおを出していました。



集落から水庭・作業場へ下る縄文の道 2006. 10. 10.



写真9 梅之木ムウの道
(道域して平掘面をつくりだしています)



写真10 水辺の作業場の様子



写真11 水辺の作業場 (軟石道橋)



写真12 水辺の作業場 (黒石土坑)



発掘当時の水場へ下る縄文の道

北杜市埋蔵文化財センター資料より

やっぱり 再度立ち寄ってよかった。

大満足の梅/木縄文遺跡でした。

また、沢で発掘調査をつづけていたおばさんたちに会えたのもラッキー。 リンゴ園のところから下に降りていけばすぐに埋蔵文化財センター。 気楽に色々教えてもらえると。

本当に遺跡の空からの写真や資料などをだしていただき、教えてもらえました。

環状の縄文集落がそっくりそのまま見られるなんて、本当にそっくりそのまま残してもらいたい遺跡です。

「縄文の心を映す」といわれる円環・サークル

秋田大湯や青森・小牧野遺跡など東北・北海道のストーンサークル 北陸のウッドサークル

北海道キウスの周堤墓群 千葉の加曽利貝塚 そしてこの八ヶ岳・茅ヶ岳山麓梅/木遺跡の縄文の環状集落
縄文人たちの生活の証ではあるが、現代の眼でその「縄文の心」を探ってみたいものである。

蛇足ながらリンゴ園の横道を茅ヶ岳の方に入ったところにワイナリーがあり、食事が出来るのをみつけていましたので、そこで昼食しようと・・・。行ってびっくりしたのですが、 このワイナリーが清里で梅/木遺跡の話をしながらかんだ「茅ヶ岳」ワインのワイナリー。

三内丸山ではニワトコで酒を作っていたといいます。

この梅/木遺跡ではどうだったのでしょうか・・・



006. 11. 18. 梅/木遺跡を訪ねたときのことを思い出しながら

2006. 11. 18. Mutsu Nakanishi

注：この Country walk 和鉄の道 製鉄遺跡探訪とは少し離れていますが、三内丸山遺跡・ストーンサークルなどと同様鉄以前の縄文の流れを知る上で重要と思って、和鉄の道にも収録しました。



中央高速道より八ヶ岳 富士見市付近



中央高速道 伊那周辺より 南アルプス連峰

2. ハケ岳 清里 清泉寮に泊まって 白樺が美しい秋の清里 アルバム



初秋 ハケ岳山麓 清里 清泉寮にて 2006.10.7.朝

早朝のハケ岳山麓清里はもう秋。 昨日の雨も上がって 青空が広がりだした 7 日 夜がしらみ始めた早朝 さくさくと落ち葉を踏みしめて歩く白樺の森に聖アンデレ教会の鐘の音が響いていました。 やっぱり 一泊して早朝歩く幸せ 素晴らしい散策。 其の時のアルバムです。

2006 秋 ハケ岳山麓 清里 一度泊りたかったボール・ラッシュの清泉寮に泊まって 2006.10.6.&7.



茅ヶ岳から南アルプスの眺望 清里 清泉寮前より 2006.10.7.朝

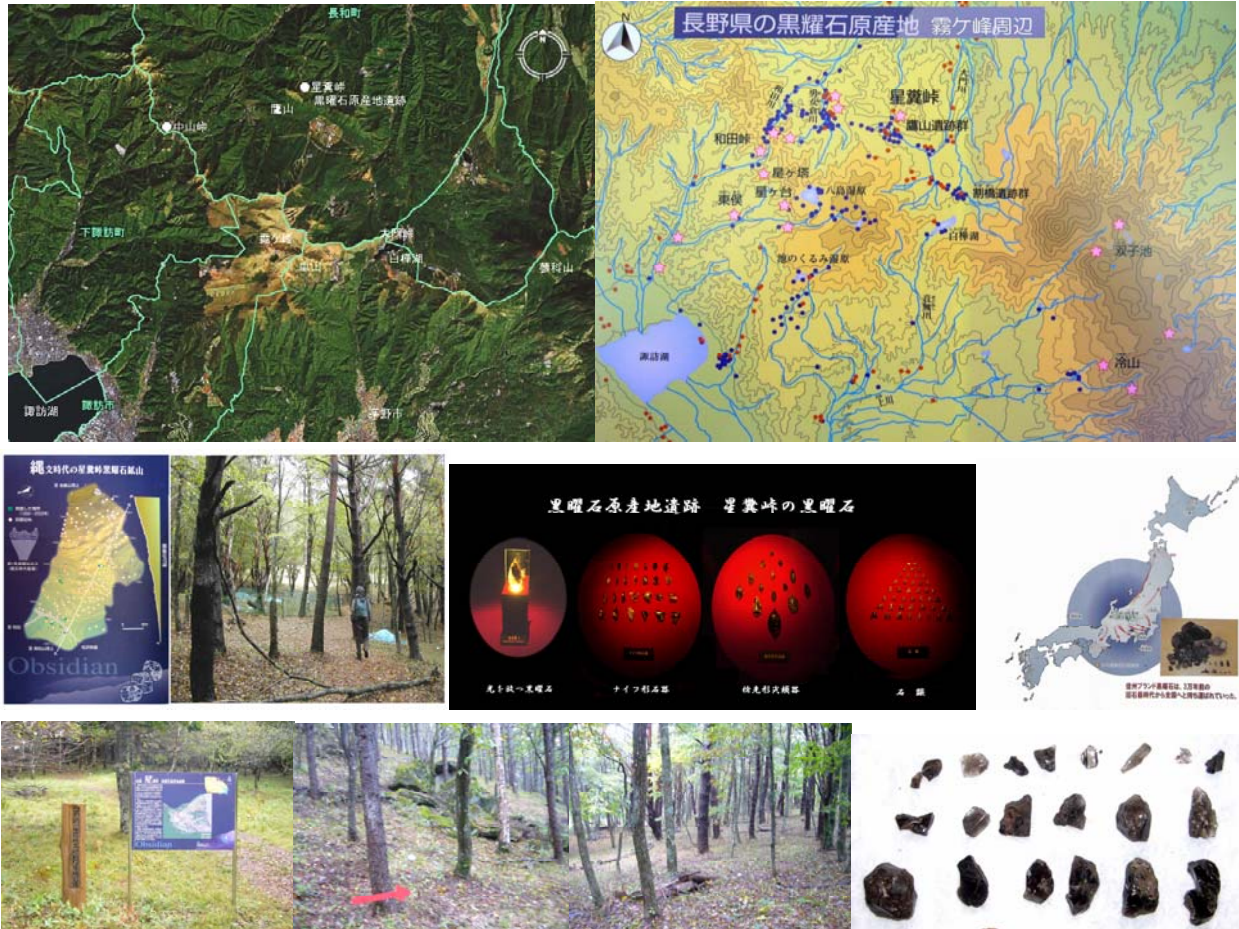


いろいろはぐめた清里の森で 2006.10.7.朝



「朝の朝り」を上げる鐘の音が 澄みわたる森にひびいてゆく
清里の森の中にある聖アンデレ教会 2006.10.7.

3、 縄文の黒曜石原産地遺跡 長和市星麓峠に縄文の黒曜石鉱山を訪ねる 縄文石器材料「黒曜石」を日本各地に配っていた霧ヶ峰・中山峠



縄文の黒曜石鉱山 長和町鷹山 星麓峠黒曜石原産地遺跡

2006. 10. 7.

10月7日朝 心配した昨夜の雨もやみ、雲はあるものの日が差している。予報によれば山梨県側は晴れるが、信州側はまだ雨が残ると。

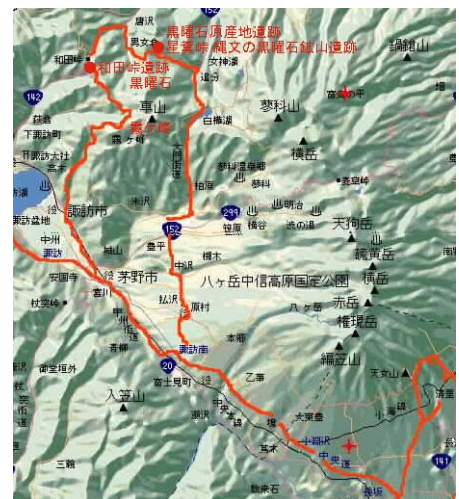
今日は日本各地に運ばれた信州・霧ヶ峰の黒曜石の原産地 縄文の黒曜石を見に行く。

黒曜石は切れ味の鋭いナイフや鏃・槍先など縄文の主要道具の原石で、北海道上川「白滝」信州「霧ヶ峰・中山峠」そして「隠岐」など限られた産地でしか出土せず、「糸魚川」の翡翠などと共に縄文時代の主要な交易品で、是非一度自然の中に在る原石をみたいと、北海道上川にもトライしたのですが、雪で行けずで、それならば、信州で・・・と思っていた場所である。

中山峠は中山道の諏訪・甲州側から信州へ入る交通の要衝であり、茅野・諏訪から霧ヶ峰・美ヶ原へと続くポピュラーなハイキングコースで、信州には何度も行きましたが、私は足を踏み入れたことがない場所でした。

山のガイドブックにも「八ヶ岳や霧ヶ峰 山道を歩いているところどころに今も黒曜石が落ちている」と書いてあるのを知って、信州へ行ったら今度は是非霧ヶ峰へ足を伸ばそうと・・・。

インターネットで調べるとその霧ヶ峰周辺の長和町 鷹山の星麓峠はそんな縄文人が長年にわたり黒曜石を採取した



鉾山でその鉾山遺跡が「黒曜石原産地遺跡」として保存され、また、鷹山には「黒曜石ミュージアム」明治大学の黒曜石研究センタがあり、今も調査を続けていることが知れた。また、長和町のインターネット地図には点線の山道が星糞峠を通過して山についているし、どうも星糞峠を越える林道がある。ここを歩いた記事がないか??? 調べるのですが、「黒曜石ミュージアム」の記事意外に星糞峠を歩いた記事は1,2しかなく詳細がよくわからない。「まあ 出かければ 黒曜石の露頭の位置も教えてもらえるだろう。

地図で見れば 道がついていそうなので2時間もあれば、何とかできるだろう。地図だけしっかり持って 後はミュージアムで教えてもらって・・・」といった調子である。現地に行ってみましたが、私が描いていた「『黒曜石原石の露頭』がみられる」というイメージとは随分違うことが 後で判りました。

黒 曜 石 :

火山岩の一種で化学組成では一般に無水珪酸に富んだ酸性岩で、流紋岩や石英安山岩とよく似ています。

火山活動により地上に噴出した流紋岩～安山岩質の粘性の高い

岩漿（マグマ）が、急冷により、晶出が妨げられてできた岩石で硬度は5度。比重は2,339～2,527。

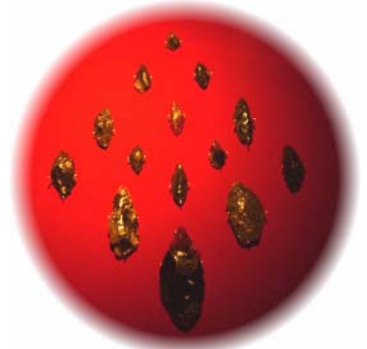
これらは、ケイ長質岩に分類され、けい

酸アルミニウムの他に酸化カリウム、酸化ナトリウムなどのアルカリ金属酸化物を8～12%含み、比較的鉾物の融点が低いのが特徴。

どんなマグマでも黒曜石になるものではなく、流紋岩～石英安山岩質のマグマからできます。

また、割るとガラスのように鋭いエッジが出来ることから、石器の材料として使われてきました

今から約80～140万年前の諏訪地方では八ヶ岳山系が活発に噴火し、地下からのマグマが地表に噴出し、壮大な噴火活動が繰り返され、その噴火活動が終息にいたる際に、粘度の高いマグマが急速に冷却し、黒曜石が生成されました。



星糞峠のある長和町鷹山へは 清里からは ちょうど八ヶ岳を挟んで北西の山の裏側で、小海線の通っている八ヶ岳の東側を越えるか または八ヶ岳の西側の茅野から蓼科山の横 白樺湖を越えるかして、甲州・諏訪側から信州側へ越えねばならない。土地勘のない関西からだだと車でないと行きにくいところである。

清里の朝と清泉寮の朝食をゆっくり楽しんだの出発で、朝が遅れたので、茅野から白樺湖の横を越えて、鷹山に入ることにする。其の後 星糞峠を歩いて、黒曜石見られなかったことを考えて、鷹山から中山峠・霧ヶ峰へ行って東京へ向かうスケジュールをたてる。

清里から中央高速道路長坂 IC から諏訪南・茅野 IC を出て、北へ八ヶ岳・蓼科山の西山麓を白樺湖へ。

八ヶ岳には雲がかかっているが青空ものぞいて快適。八ヶ岳の西麓の丘陵地国道 152 号線を北へ、尖石縄文遺跡のすぐ近くをどんどん登って、蓼科山の山中へ入ってゆく。この辺りから青空は消え、霧雨交じり。



中国道から八ヶ岳 長坂 IC



茅野から蓼科山の山中



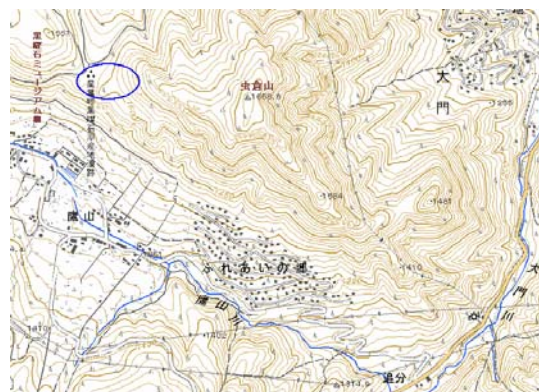
諏訪・信濃の境 蓼科山山麓白樺湖

約 1 時間 30 分ほどで、白樺湖。やっぱり冷たい風で寒いが、湖面に霧が立ち込め、かえて美しい。

もう ここから大門峠を越えればすぐ鷹山である。

霧雨の中 霧ヶ峰・車山への分かれ道を通りすごし、あっけなく大門峠を越えて信州側へ。

大門峠を越えて すぐ 鷹山スキー場・黒曜石ミュージアムの標識のある追分で左へ鷹山の集落に入る。山又山の真っ只中である。霧雨の中周りの状況がよくわからないまま黒曜石ミュージアムの前につく。



南には大きな鷹山スキー場のゲレンデから霧ヶ峰の山々が見え、反対側ミュージアムの横 草地の広場の向こうに星糞峠・虫倉山の尾根筋が見えている。



鷹山 1. スキー場入り口の標識で集落へ

鷹山 2. 黒曜石原産地遺跡のある虫倉山は雲の中

鷹山 3. 黒曜石ミュージアム

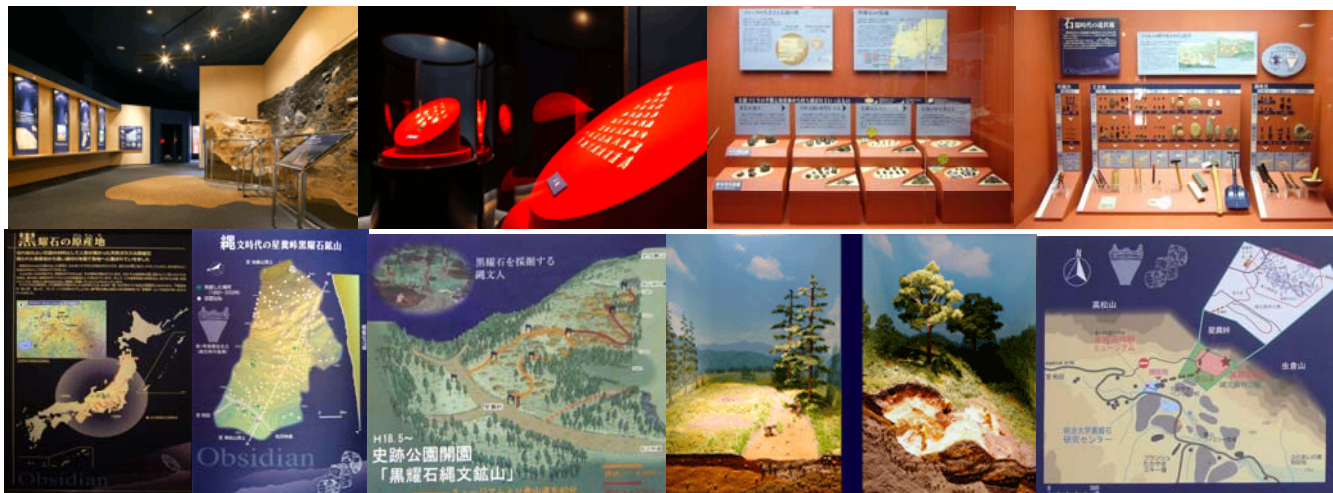


雨もあがり、星糞峠のある虫倉山が見えてくる 黒曜石ミュージアム前 2006. 10. 7.

広場中央奥の案内板のところから星糞峠への遊歩道がついている

まず、星糞峠の黒曜石・星糞峠への道への情報を聞きに黒曜石ミュージアムに行く。

ミュージアムにはかつて 縄文人が黒曜石を採取した黒曜石鉱山の解説や黒曜石採掘の様子と加工で作り出された石器や信州黒曜石の広がりなどがわかりやすく展示されている。



黒曜石体験ミュージアム 星糞峠黒曜石の展示

2006. 10. 7.

このミュージアムや長和町では黒曜石の「曜」の字を「耀・カガヤキ」と書いて「黒耀石体験ミュージアム」と書く。人の手が加わって割れた黒曜石の破片は光を浴びてキラキラ輝く。この地に無数に散らばる半透明の意思がキラキラ輝くのをいつの頃からか「星糞」と呼び習わしてきたことから、「黒曜石」にも「黒耀石」と名づけたという。この地が国内有数の黒曜石原産地である証を主張しているのだろう。

「星糞峠に登って 黒曜石の露頭のところまで行きたいので そこまでの道を教えてほしい」と言うとうとうもおかしい。

「星糞峠まではこのミュージアムの裏から遊歩道がついて、その周りが星糞峠の黒曜石鉱山遺跡です。

星糞峠の黒曜石鉱山の周辺までなら 30 分ほどで行けるのですが、遺跡から上の方は急な山道になるので厳しいし、行かない方がいい。露頭と言っても それは見つからない。それに 今 熊が周辺の山に出て 危ないので 星糞峠の方には行かない方がいい。」と学芸員の人も出てきて、どうも歯切れが悪い。

「ええ・・・熊 こっちの尾根に出没しているのでなければ行けるでしょう。鈴でもあれば貸してほしい」と。

「まあね。 十分注意すれば・・・」と OK してくれる。

ミュージアムで鈴を用意してもらっている間にミュージアムの展示を見ることにした。



「星糞峠の縄文黒曜石鉱山遺跡」や「黒曜石の露頭が見つからない」の言葉に引っかかっていたましたが、展示を見て 判りました。



この地の黒曜石産出の経緯は次の通りだという。

昔虫倉山噴火で黒曜石が形成され、その火口近傍が地殻変動や気候不安定な時期とあいまって、土砂崩れで

崩壊し、大量の黒曜石が土砂と共に星糞峠から山麓の川にまで流れ落ちた。

旧石器人たちは川で土砂で洗われて露出した黒曜石の破片を発見し、それで道具を作り、この鷹山川筋に住み着き、狩などで生活をはじめた。多くの人達がこの川筋で生活を始めた。

そして 縄文の時代になると もう川筋には黒曜石が取れなくなり、山に登って黒曜石を掘り出すようになり、小さく砕いた原石や道具に加工された黒曜石が各地に運ばれるようになった。

それで、縄文人が山で黒曜石を掘り出した後の窪地が確認されただけで 150 以上星糞峠から上の虫倉山の斜面に点々と存在し、「星糞峠縄文の黒曜石鉱山遺跡・黒曜石原産地遺跡」として保存され、この黒曜石の破片が星糞峠近傍でキラキラひかり、「星糞」と呼ばれてきたという。

したがって、耳慣れない「黒曜石鉱山」の言葉や「黒曜石原石の露頭」が見つからぬ由縁である。

鈴を腰に「カラン カラン」と音をさせながら、草地の奥の入り口から林の中に入ってゆく。

まあ 鈴を付けても最近の熊には鈴もお守り程度ですが、二人がガサガサ音をたてれば大丈夫でしょう。

「星糞峠縄文黒曜石鉱山へ」の案内板のところから木片が敷かれた遊歩道が林の中 尾根の上へと登ってゆく。

敷き詰められた木片が絨毯のように心地よく、雨上がりの緑が美しい森の中の静かなハイキングです。

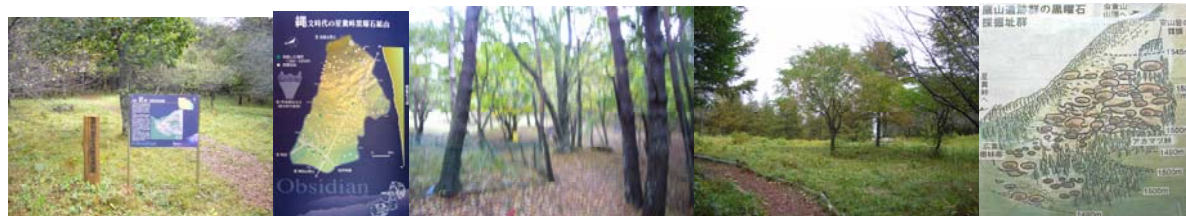
こんなに良く整備された道があるとは思ひもありませんでした。

「これ 黒曜石じゃない さっきから 時折 キラキラ光っている石がある。」と家内が小さな黒い破片を指でつまんでいる。ガラス状半透明の黒い破片 こんなに簡単に黒曜石が見つかるなんて・・・

道端に眼を凝らしながら、尾根の上へ向かって 30 分。尾根の上に出たところが星糞峠だった。



星糞峠へと続く良く整備された遊歩道 2006. 11. 7.



国史跡星糞峠黒曜石原産地遺跡の案内板のある星糞峠

峠には左から右へ尾根を越えてゆく林道があるが、峠の左で扉が閉じられていて 林道からは峠へは行けない。

峠は右手の虫倉山と左の小さな山高松山の鞍部になっていて、右手の虫倉山への山の斜面が続く林の入り口に「星糞峠黒曜石原産地遺跡」の案内板があり、この林の奥急な山の斜面に広がる縄文人の黒曜石採取跡 黒曜石鉱山の分布図が点々と 150 を越える番号が付けられた印で示され、林道側の休憩所にはこの鉱山遺跡の模型が置かれていた。 峠が標高約 1400m でここから虫倉山の斜面 1540m 近くまで 広がっている。



峠の上にも 111 号・112 号採掘跡の標識を付けた窪地が青いシートで覆われ直ぐそばに見える。

この星箕峠の左手 西側の谷へ降りたところが女男倉川の黒曜石原産地そしてその向こう北から南へ続く尾根筋が和田峠・霧ヶ峰の石曜石原産地がつづく。

「信州 霧ヶ峰黒曜石原産地」「八ヶ岳山麓の黒曜石原産地」と呼ばれる信州の黒曜石原産地帯と呼ばれる日本各地で使われた縄文の黒曜石石器の原石の供給場所である。特にこの星箕峠は 縄文人が長期にわたって、黒曜石を採掘した跡が窪地となって山の斜面に点々と続く縄文の黒曜石鉱山跡である。

星箕峠黒曜石原産地遺跡の標識のところから赤い矢印の順路標識にしたがって、鉱山遺跡の中に入る。

虫倉山の頂上へ向かう緩やかな斜面の静かな雑木林の中に、採掘跡を示す野球ボールほどの認識票がついた窪地が点々と続く。

程なく前方に金網に囲まれたブルーシートがかぶせられた窪地が案内板とともに見えてくる。

標高 1500m 鉱山遺跡の中ほどにある第一号掘削跡遺跡である。



虫倉山へのゆるい斜面上に広がる黒曜石鉱山遺跡 第一採掘跡周辺 2006. 10. 7.



黒曜石鉱山遺跡 第一採掘跡と発掘状況を示す案内板 縄文後期 3500 年前

この案内板によると「この窪地の地下には、直径 3m 深さ 3m ほどの井戸状の穴が多数埋もれている。

この穴は竖坑と呼ばれ、黒曜石の塊を掘り出した穴で、黒曜石の塊がうずまっている白い粘土層に向かって掘られた穴である。 この竖坑から縄文後期 3500 年前の土器が出土している。」と記されていた。

この第一採掘跡の少し上のところから虫倉山の頂上へ向かって急斜面となっていて、ロープが張りめぐらして一般の見学路はここで横に巡るようになっていた。

さらに上に行くところにはロープを越えたところに「探求コース」の案内板があり、赤い矢印の踏み跡表示が急な斜面をジグザグに登る細い踏み跡があり、踏み跡沿いに採掘跡を示す窪地表示ボールが点々と続いている。

「ここより上が厳しいので、上に行かずに降りてきたら・・・」とアドバイスもらったところ。

案内板には「星箕峠鉱山遺跡は標高 1487m の所にある星箕峠から虫倉山頂上部周辺 1546.8m の南北 220m 東西 300m に広がっている。

そして、第一号採掘跡のある標高 1500m のこのあたりが、遺跡のちょうど中間点。ここまでの緩やかな斜面がここから急斜面に変わる。この急斜面と頂上の間にまだ見つからない黒曜石形成にかかわった噴火口がある可能性が高い。」と書かれていた。

また ここに至る道々にも目を凝らすと小さな黒曜石の破片がポツポツと見つかった。

熊が出る気配もないし、「やっぱり、視界の開ける頂上周辺 鉱山遺跡の最上部まで行きたい」と結局そのままさらに上へ登って 鉱山遺跡の最上部まで行きました。



標高 1500m 付近 急斜面の斜面に採掘跡を示すボールと探索路を示す矢印が続く



見学路で見つけた黒曜石



鉱山遺跡の最上部 2006. 10. 7.

探求コースの案内板から、さほど掛からずに鉱山遺跡の最上部になり、木々のないオープンな草地になり、そこからは西側に広がる霧ヶ峰の山々 そして真下に鷹山の集落が見えました。



1. 鷹山集落越しに見える霧ヶ峰の山々



2. 鷹山の集落

星箕峠鉱山遺跡 最上部からの眺望 2006. 10. 7.

糸魚川の翡翠と対になって、三内丸山遺跡までも運ばれた信州の黒曜石。

是非そんな信州の黒曜石原産地で自然の黒曜石を確かめたかった希望がかないました。

ミュージアムの人達は降りてくるのが遅いので心配したと聞きましたが・・・結局ゆっくりと星箕峠鉱山遺跡の林の中を2時間弱歩いて、黒曜石ミュージアムまで降りてきました。

情報が少ししかなく、どうなるかと心配して出かけたのですが、誰もいない静かな山中 木々が点在する山の斜面の林の中に今もキラキラと黒曜石のクズが輝いていました。

車でないと便利の悪い場所ですが、「星箕峠」の名前そのままに誰もいない神秘的な空間。

ゆっくりと縄文と対話できる空間でした。

この後 霧ヶ峰・中山峠の黒曜石を続けて訪ねる計画でしたが、もう 満足いっぱい 結局車で中山峠・霧ヶ峰を車で走りぬけて、諏訪まで出てきました。

ご機嫌の鷹山 星箕峠の黒曜石探訪でした。

もっと 便利がよければ 本当にお勧めなんですが・・・



星箕峠 黒曜石原産地遺跡 長野県長和町鷹山 2006. 10. 7.



黒曜石は、諏訪湖の北方にそびえる霧ヶ峰にある和田峠、星ヶ塔、星ヶ台、東御屋、霧ヶ峰、星箕峠、男女倉などで産する。

いずれも標高1,500メートル前後で高位にあり、総じて 和田峠産黒曜石と呼ばれ、その代表的な原産地遺跡が霧ヶ峰に隣り合う長野県長和町鷹山の鷹山遺跡群の星箕峠黒曜石原産地遺跡である。このいわゆる和田峠産の黒曜石は、松本～大町を経て鉾川水系を流下して糸魚川に至る地理学的フットサ・マグナと重なる文化伝播経路を経て、日本海に面する糸魚川に出る。そして、鉾川で産するヒスイとセットとなって、西は富山県や石川県、福井県へ、そして東は新潟県から青森県へと運ばれていた。

鷹山黒曜石原産地遺跡群は大規模な11の遺跡と小規模な5つの地点遺跡から構成され、星箕峠には縄文時代の黒曜石鉱山と呼ばれる大規模な発掘跡がある。旧石器時代の遺跡群は1950年代に地元の児玉司農氏によって発見され、その後、小規模な発掘が行われてきたが、1984年のたかやまスキー場建設に伴う発掘調査が契機となって、黒曜石原産地遺跡として本格的な調査が行われるようになった。

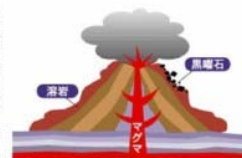
そして、遺跡群の一部からは石器や槍先尖頭器の製作に関わる遺物が大量に出土するなどこれらの遺跡が原産地という特性を背景として黒曜石の採集から、目的とする石器の産産・搬出を行っていた遺跡である事も確認されました。また、前人未到の森林部全体を対象として、鷹山遺跡群の詳細な分布調査が行われ、星箕峠を中心とした数多くの黒曜石採掘跡である180を超える凹型くぼ地の存在が確認された。

現在 縄文の黒曜石鉱山と呼ばれる星箕峠の遺跡では 峰から虫倉山の急な斜面の林の中にあるこれら黒曜石の採掘跡の凹型産地の一つ一つに番号がつけられ、国史跡「黒曜石原産地遺跡」として保存されている。

この星箕峠黒曜石原産地遺跡の成り立ちについては次のように考えられている。

今から数十万年前 鷹山の星箕峠近くには大きな火山の噴火口があり、火道の周囲はマグマが急激に冷やされてできたガラス状の火山岩「黒曜石」の壁が出来ていた。そして、火道の上部が崩れ、大量の土砂とともに黒曜石が鷹山川に堆積。埋もれた川の一部は溜地化する。約2万年前の旧石器時代に人々がこの溜地の周辺に住み、狩をすると共に この鷹山川で土砂が流し出した黒曜石をみつけ、石器に加工しはじめる。また この地の黒曜石が周辺にも伝わり、この黒曜石を取りにくる人達も現れる。約1万年前までの縄文時代 気候は暖かくなり、周囲に森が発達すると共に気候が穏やかになると山崩れも少なくなり、川に崩れ落ちる黒曜石も少なくなり、縄文の人達は山に登りつづ、黒曜石を掘り始め、それが3500年前頃縄文の終わりまで続く。

この黒曜石は上記のような過程で埋まることから、その原産地は限られ、あたかもこの地が縄文の黒曜石鉱山として、山の斜面のあちこちで大量の黒曜石が掘り出され、その原石や鋭利なナイフ状石器や石鏃 槍先尖頭器などの石器に加工され、糸魚川周辺のヒスイとついでに遠く青森三内丸山遺跡など全国に広がっていった。





中山道 和田峠周辺 峠に和田峠遺跡群の標識が立っていた 2006. 10. 7.



すっかり 秋の装い 紅葉が始まった霧ヶ峰 2006. 10. 7.
ここにも縄文人の足跡 黒曜石の原産地がある